

初等中等教育における性教育の在り方に関する研究

毛利 史枝、穴井 観月、松本 禎明

九州女子短期大学専攻科子ども健康学専攻
北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2014年11月13日受付、2014年12月18日受理)

要 旨

子ども達の気になる性行動は低年齢化の一途で、人工妊娠中絶や性行為感染症罹患者の増加など、学校教育における早期の効果的な性教育の必要性は益々高まっている。そこで本研究は、九州地区の中堅規模総合大学1年生の男子58名、女子55名の計113名を対象に、初等中等教育でどのような性教育を受けてきたのかアンケート調査を行い、児童・生徒にとって望ましい性教育の在り方について検討を行うことにした。

調査の結果、初等中等教育の性教育で学んだ項目は、男女ともに上位が生理的、性行為的内容であり、下位にいくにつれて心理面的内容が多くなっていった。性教育を行ってほしい教員は、男女共に、中学校時期から保健・体育科教師という回答が圧倒的に多くなっていった。また、養護教諭の関与の割合を見てみると、小学校時期(40%)から中学校時期(24%)と低くなっているが、回答の絶対数はほぼ同じであり、適切な性教育担当者として養護教諭を挙げていることから根強い一定の期待感があることが分かった。

以上のことから、性教育は、教職員全体の共通理解の下、役割分担を明確にし、密に連携して生理学的な内容から心理学的内容まで幅広く行う必要があると考えられる。

I. 緒言

近年、子どもの気になる性行動は低年齢化の傾向を示し、10代の人工妊娠中絶の増加や性行為感染症の蔓延など、次世代を担う若者は早期から性に関する問題に直面している¹⁾。日本性教育協会の青少年性行動全国調査によれば、性交経験があるものは、中学生男子では3.7%、中学生女子では4.7%、高校生男子では14.6%及び高校生女子では22.5%と報告されている。また、10~20代の性感染症の報告数は、平成14年度あたりから一貫して減少しているが、予定外の妊娠による10代の出産状況は、1990年代後半から2000年の間に増加したまま、現在まで変化がないとされている²⁾。さらに、近年、携帯電話やインターネット等の普及により、子どもたちを取り巻く情報量が増え、それに伴い性情報の氾濫が見られる。つまり、子どもたちを取り巻く性に関する環境はめまぐるしく変化していることがいえる³⁾。

このような現状から、学校教育における性教育の果たすべき役割の重要度は益々増している。しかしながら、2002年以降、学校の性教育に対する保守派の「性教育バッシング」が起

こり、性教育の内容に対する厳しい抑圧と規制が強まった。この結果、学校における性教育実践は萎縮し、後退した⁴⁾。一方、内閣府の低年齢少年の生活と意識に関する調査によれば、家庭でも、性教育を行っているのは、回答者全体の23%に過ぎないことが報告されている⁹⁾。これらのことから、子どもへの十分な性教育が行われているとは言い難い。

さらに、日本性教育協会の青少年性行動全国調査で、大学生に今までに学校の性に関する学習内容が自分にとって役に立ったと感じましたかという質問に対し、「あまり役に立たないと感じた」、「ぜんぜん役に立たないと感じた」を合わせた回答数が、「非常に役に立つと感じた」、「役に立つと感じた」を合わせた回答数を上回ったことが報告されている²⁾。

そこでこのような現況を踏まえ、時代に則した子どもへの性教育の在り方について検討するために九州地区の中堅規模総合大学の男女学生に対して、過去初等中等教育機関で受けてきた性教育に関する学習効内容並びに効果等について調査を行った。

II. 調査方法

1. 時期

平成26年5月25日に実施した。

2. 調査対象

九州地区の中堅規模総合大学1年生の男子58名、女子55名の計113名を対象に調査した。

3. 方法

調査は自記式質問用紙を使用し無記名で行った。調査用質問用紙は、日本性教育協会などの質問内容^{2, 4)}や性教育に関する研究^{7, 10, 11)}を参考にした。

4. 調査内容

調査の内容は、以下の9項目で構成している。

- ①性教育に含まれる内容だと思うもの
- ②小学校の時、性教育を受けたか
- ③中学校の時、性教育を受けたか
- ④高等学校の時、性教育を受けたか
- ⑤学校教育の性教育で学んだ内容
- ⑥性教育を受けた際、不快な気持ちになったことはあるか
- ⑦今までの性教育を振り返り、受けてよかったと感じたことはあるか
- ⑧高等学校までに十分な性知識を得られたと思うか
- ⑨性教育を行ってほしい教員

5. 倫理的配慮

質問紙調査の内容に関しては「本研究以外では使用しない」「個人が特定されない」「本人が答えたくない場合は答えなくてもよい」ということを説明し、実施した。提出のあった

ものを合意が得られたものとした。

III. 調査結果

調査の有効回答率は、男子58名、女子55名の全113名得られたため100%であった。なお、回答の割合(%)については、小数第1位を四捨五入し整数値で表示した。四捨五入の関係で、総計が100%にならない箇所がある。

1. 性教育に含まれる内容だと思うものについて

性教育に含まれる内容だと思うものについて、男子で最も多かったものは「避妊方法」95%、次いで「性交」93%、「エイズ」91%、「人工妊娠中絶」、「性感染症(エイズを除く)」、「精通・射精」88%、「初経・月経」86%、「妊娠・出産」84%、「性的な欲求とその調節」、「性の不安や悩みについての相談窓口」、「生命誕生のしくみ」79%、「性行動と自己決定権」78%、「性情報への対処」、「自慰」76%、「性的マイノリティ(同性愛、性同一性障害など)」74%、「セクハラ・性暴力の問題」、「男女の平等と性役割観」72%、「男女間の友情と恋愛」、「二次性徴」67%、「いのちの尊さ」57%であった(図1-1)。女子で最も多かったものは「妊娠・出産」93%、次いで「人工妊娠中絶」91%、「性感染症(エイズを除く)」、「避妊方法」、「性交」89%、「エイズ」87%、「精通・射精」84%、「初経・月経」82%、「性的な欲求とその調節」78%、「性行動と自己決定権」75%、「性の不安や悩みについての相談窓口」、「生命誕生のしくみ」71%、「セクハラ・性暴力の問題」、「性的マイノリティ(同性愛、性同一性障害など)」67%、「性情報への対処」、「男女間の友情と恋愛」65%、「男女の平等と性役割観」62%、「いのちの尊さ」60%、「自慰」45%、「二次性徴」42%であった(図1-2)。

2. 初等中等教育で受けた性教育について

小学校で性教育を受けたと回答した男子は84%、女子は67%であった。また、受けてないと回答した男子は14%、女子は33%であった(図2)。

中学校で性教育を受けたと回答した男子は100%、女子は98%であった。また、受けてないと回答した男子は0%、女子は2%であった(図3)。

高校で性教育を受けたと回答した男子は100%、女子は96%であった。また、受けてないと回答した男子は0%、女子は4%であった(図4)。

初等中等教育の性教育で学んだ内容について、男子で最も多かったものは「妊娠・出産」95%、次いで「エイズ」、「初経・月経」93%、「性感染症(エイズを除く)」、「性交」91%、「精通・射精」90%、「避妊方法」88%、「人工妊娠中絶」83%、「性行動と自己決定権」、「生命誕生のしくみ」76%、「セクハラ・性暴力の問題」、「性的な欲求とその調節」74%、「性情報への対処」、「男女間の友情と恋愛」72%、「性の不安や悩みについての相談窓口」71%、「いのちの尊さ」69%、「自慰」67%、「男女の平等と性役割観」66%、

「二次性徴」60%、「性的マイノリティ（同性愛、性同一性障害など）」59%であった（図5-1）。女子で最も多かったものは「エイズ」、「妊娠・出産」95%、次いで「避妊方法」、「初経・月経」91%、「人工妊娠中絶」87%、「性感染症（エイズを除く）」、「精通・射精」85%、「性交」80%、「セクハラ・性暴力の問題」73%、「生命誕生のしくみ」69%、「いのちの尊さ」、「性行動と自己決定権」65%、「性的な欲求とその調節」60%、「男女間の友情と恋愛」53%、「性情報への対処」51%、「男女の平等と性役割」49%、「性的マイノリティ（同性愛、性同一性障害など）」、「性の不安や悩みについての相談窓口」45%、「自慰」38%、「二次性徴」36%であった（図5-2）。

性教育を受けた際、不快な気持ちになったことがあるかという質問に対して「はい」と回答した男子は10%、女子は11%であった。また、「いいえ」と回答した男子は90%、女子は89%であった（図6）。「はい」と答えた者のうち、理由として「異性と同じ教室だった」と回答した男子は57%、女子は33%。「性教育を行った教師が異性だった」と回答した男子は14%、女子は0%。「真面目に授業を受けていない人が多かった」と回答した男子は14%、女子は50%。「その他」と回答した男子は14%、女子は17%であった（図7）。

今までの性教育を振り返り、受けてよかったと感じたことがあるかという質問に対して「はい」と回答した男子は83%、女子は89%であった。また、「いいえ」と回答した男子は14%、女子は9%であった（図8）。「はい」と答えた者のうち、理由として「自分の身体を大切にすきっかけになった」と回答した男子は25%、女子は31%。「いのちの尊さを考えるきっかけになった」と回答した男子は21%、女子は25%。「自分の身体の仕組み、相手の身体の仕組みを知ることが出来た」と回答した男子は24%、女子は14%。「性感染症について詳しく知ることが出来た」と回答した男子は30%、女子も30%であった（図9）。

高校卒業までに十分な性知識を得られたかという質問に対して「はい」と回答した男子は76%、女子は75%であった。また、「いいえ」と回答した男子は17%、女子は24%であった（図10）。

小学校で性教育を行ってほしいとおもう教員について、男子で最も多かったものは「養護教諭」36%、次いで「学級担任」35%、「学校医等の外部講師」29%であった。女子で最も多かったものは「養護教諭」26%、次いで「学校医等の外部講師」10%、「学級担任」7%であった。中学校で性教育を行ってほしいとおもう教員について、男子で最も多かったものは「保健・体育科教師」33%、次いで「養護教諭」23%、「学校医等の外部講師」19%、「学級担任」17%、「家庭科教師」4%、「理科教師」3%、「社会科教師」2%であった。女子で最も多かったものは「保健・体育科教師」43%、次いで「養護教諭」25%、「学校医等の外部講師」19%、「学級担任」11%、「家庭科教師」2%であった。高等学校で性教育を行ってほしいとおもう教員について、男子で最も多かったものは「保健・体育科教師」32%、次いで「養護教諭」22%、「学校医等の外部講師」20%、「学級担任」

16%、「家庭科教師」4%、「理科教師」3%、「社会科教師」2%であった。女子で最も多かったものは「保健・体育科教師」43%、次いで「養護教諭」26%、「学校医等の外部講師」23%、「学級担任」7%、「家庭科教師」1%であった（図11）。

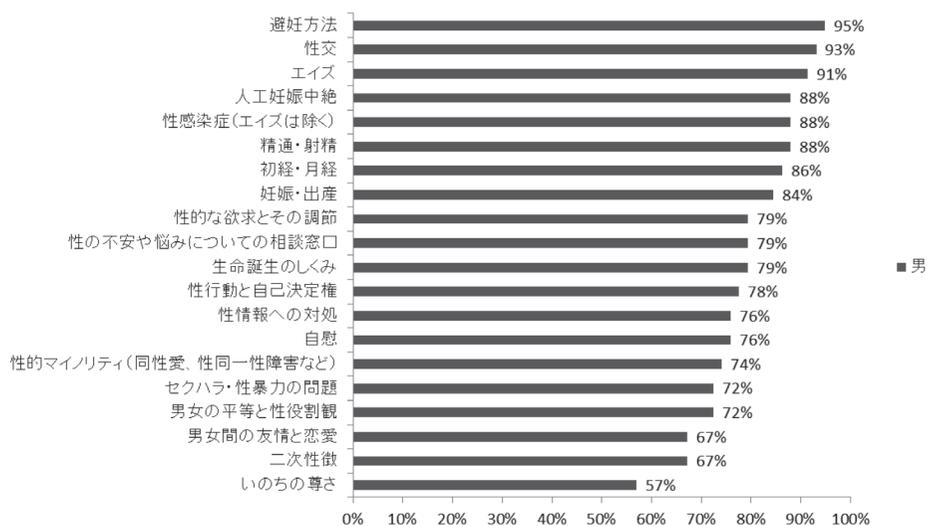


図1-1. 性教育に含まれている内容だと思うもの（※複数回答）男子回答数（n=58）

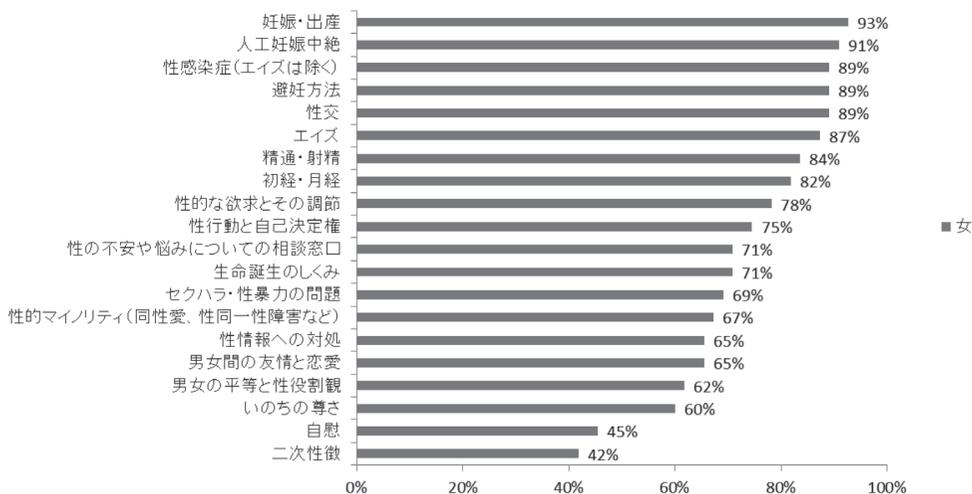


図1-2. 性教育に含まれている内容だと思うもの（※複数回答）女子回答数（n=55）

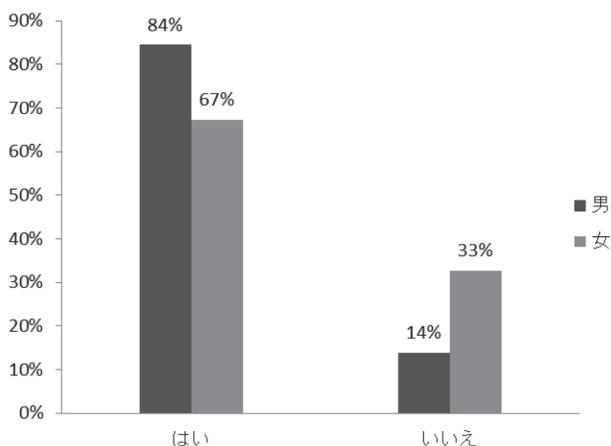


図2. 小学校の時、性教育を受けたか 男 (n=57) 女 (n=55)

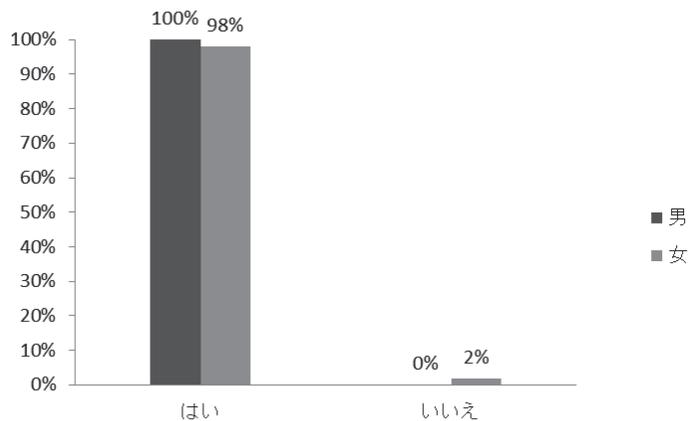


図3. 中学校の時、性教育を受けたか 男 (n=58) 女 (n=55)

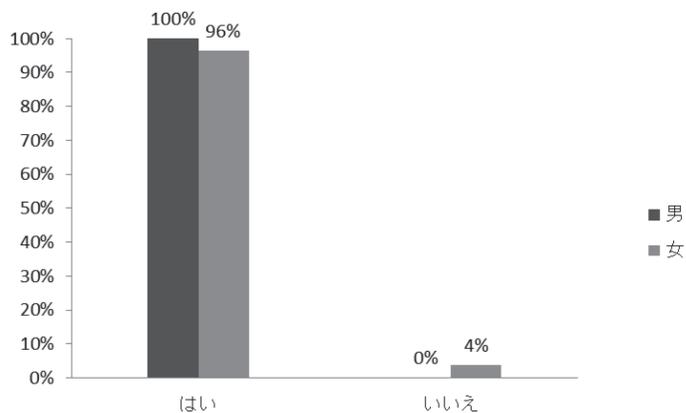


図4. 高校の時、性教育を受けたか 男 (n=58) 女 (n=55)

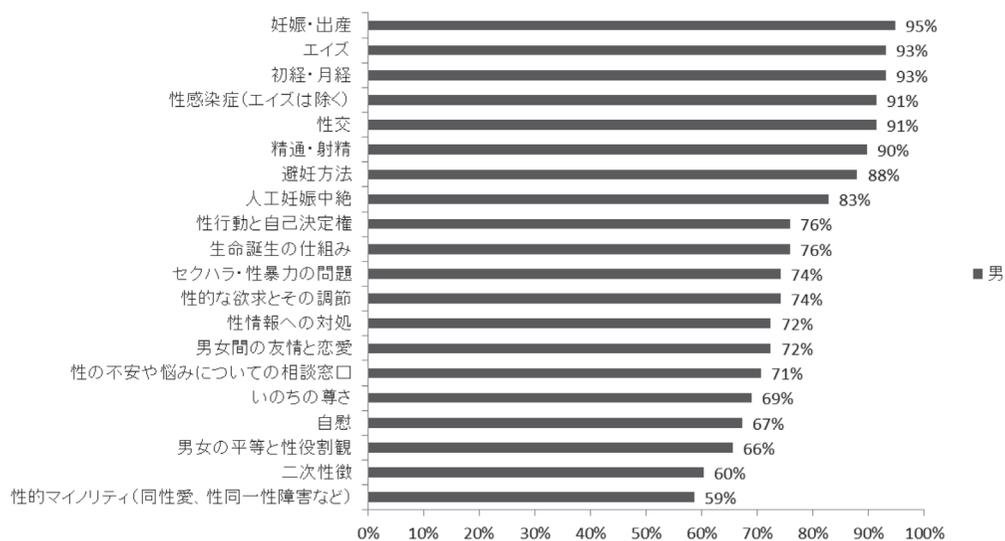


図5-1. 初等中等教育の性教育で学んだもの（※複数回答） 男子回答数（n=58）

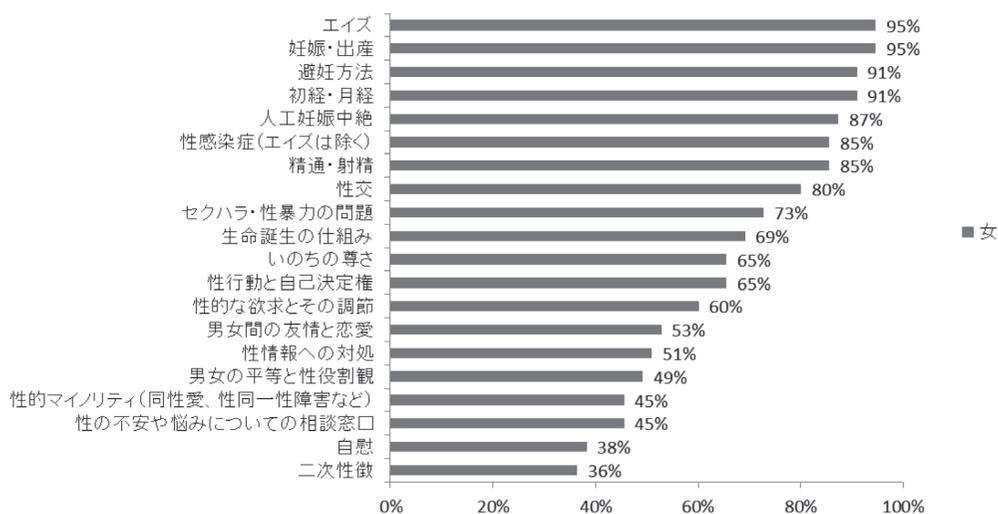


図5-2. 初等中等教育の性教育で学んだもの（※複数回答） 女子回答数（n=55）

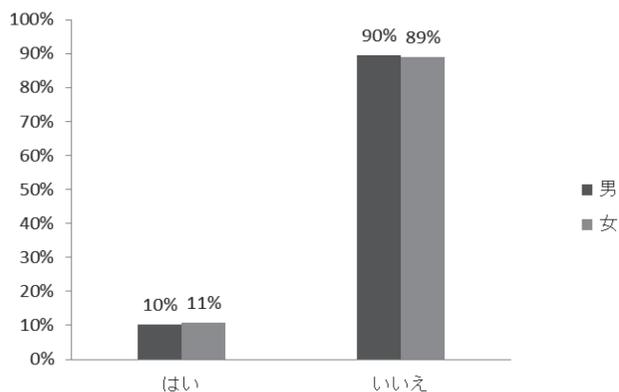


図6. 性教育を受けた際、不快な気持ちになったことはあるか 男 (n=58)、女 (n=55)

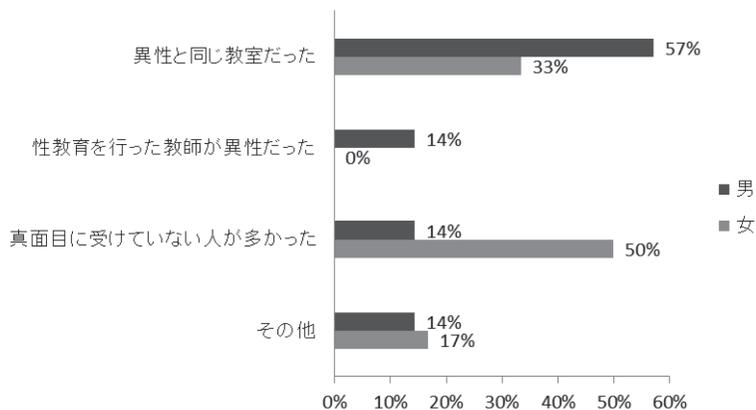


図7. どのようなことに不快な気持ちになったのか (※複数回答) 男 (n=7)、女 (n=8)

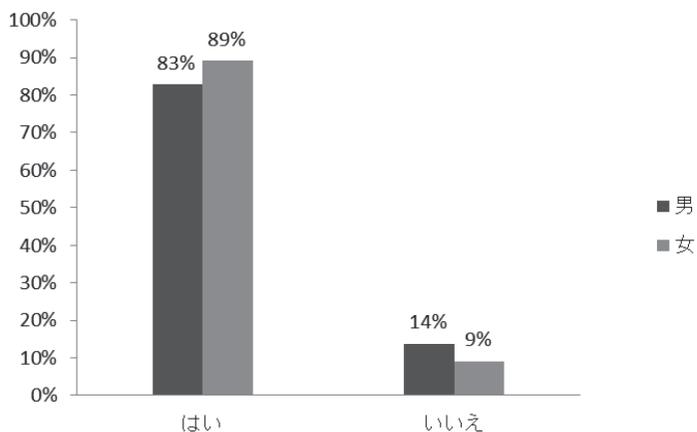


図8. 今までの性教育を振り返り、受けてよかったと感じたことはあるか 男 (n=56)、女 (n=54)

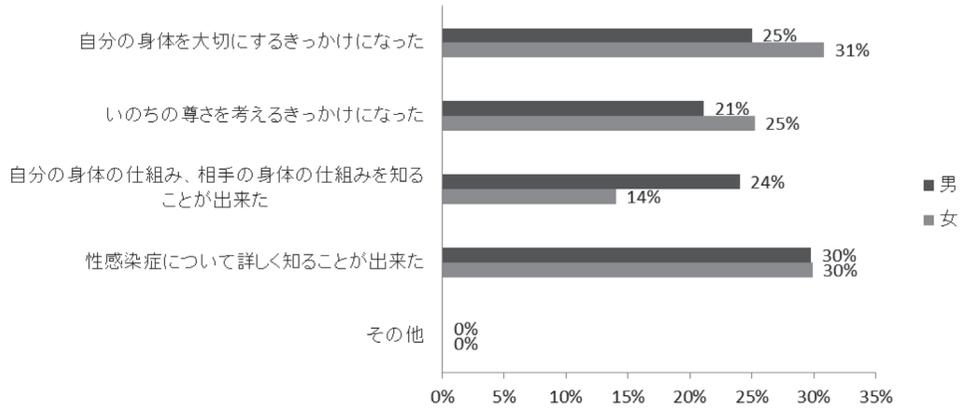


図9. どのようなことを受けてよくなったと感じたか(※複数回答) 男(n=58)、女(n=55)

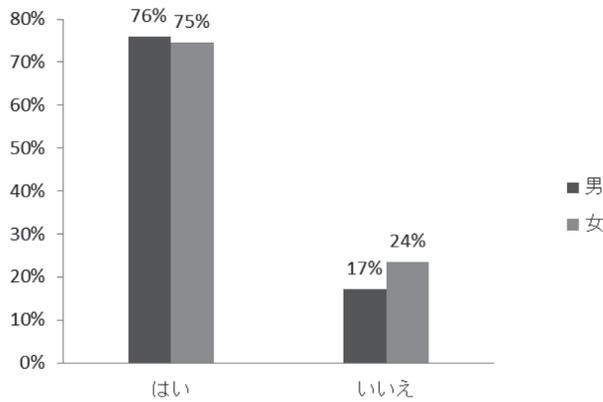


図10. 高校卒業までに十分な性知識を得られたと思うか
男(n=54)、女(n=54)

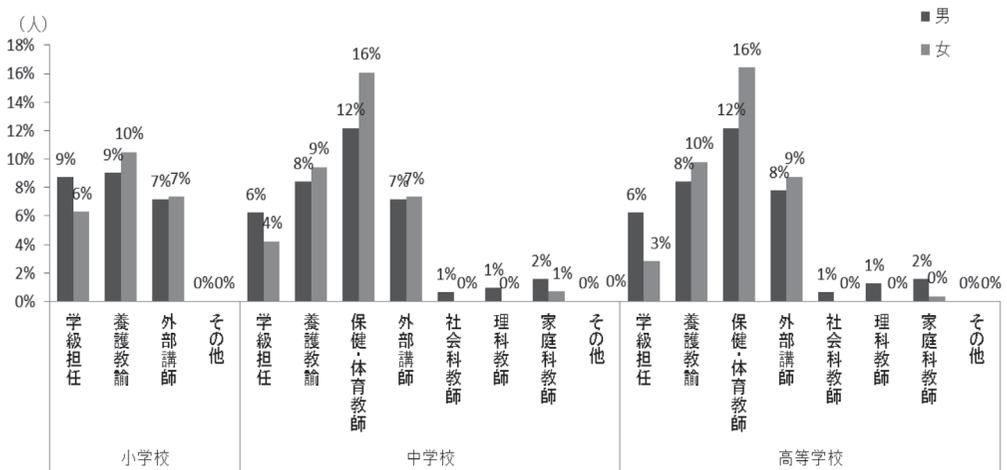


図11. 性教育を行ってほしい教員(※複数回答) 男(n=58)、女(n=55)

IV. 考察

1. 性教育に対する意識について

学生に性教育に含まれている内容だと思えるものについて聞いたところ、男女共通して言えることは、上位に性行為関係の内容が多く占めており、下位にいくにつれて心理的内容のものが多かった。特に男子学生はその傾向が強く、上位5つ全てが性行為関係の内容であった。また、男女ともに生理的な内容の「二次性徴」項目が圧倒的に少ないことも分かった。これは、二次性徴には個人差があり、関心のある人と関心のない人の差があるので、このような結果になったと考えられる。

女子学生は、上記にも書いているように、上位に性行為関係の内容が多く占めているが、最も多い項目が生理的な内容の「妊娠・出産」であった。これは、「妊娠・出産」や「人工妊娠中絶」という、特に女性に大きく関わってくる内容として、女子学生の意識が男子学生に比べ、高いといえる。また、女子学生の「自慰」の項目が男子学生に比べ圧倒的に少ないことも特徴的である。これは、日本性教育協会の「自慰についての考え」の調査で、女子は男子と比べて、自慰を肯定する人の割合が圧倒的に少ないということ、また、「自慰の経験率」の調査で、男子学生の自慰の経験率はほぼ100%であるのに対して、女子学生の経験率は50%を超えていないことに関係していると考えられる²⁾。

2. 初等中等教育での性教育

小学校で性教育を受けたことがあると回答した学生は77%（男子84%、女子67%）だったが、中学校では男子99%（100%、女子98%）、高等学校では98%（男子100%、女子96%）と、ほぼ全員が性教育を受けていることがわかった。

初等中等教育の性教育で学んだものについては、男女ともに上位が生理的な内容・性行為的な内容であり、下位にいくにつれて心理面の内容が多くなっていくことがわかった。日本性教育協会の調査でも同様の結果であるが、「セクハラ・性暴力の問題」や「男女の平等と性役割観」の項目は、今回の調査の方がやや低いことがわかった。また、男女ともに下位にいくにつれて心理面の内容が多くなっていく中で、生理的な内容の「自慰」、「二次性徴」の項目が下位にあることがわかった。しかし「二次性徴」に関しては、教えずに進めていくことは考えにくく、「二次性徴」という言葉が、学生にとってなじみのある言葉ではなかったため、受けたことがあると回答した学生の割合が低かったと考えられる。また、図1-1、図1-2の性教育に含まれている内容と比較をすると、ほぼ同じような結果になることがわかった。このことから、学校での性教育で学んだ内容を性教育に含まれている内容だと捉える学生が多いことが分かった。この結果から、初等中等教育の性教育は生理的な内容と性行為関係の内容にやや偏りがちだが、性役割観などの心理面の内容を含めた幅広い内容を、子どもたちの発達段階に応じて教えていく必要があるのではないかと考えられる。

性教育で不快な気持ちになったことがあると回答した学生は、11%（男子10%、女子

11%)であり、殆どの学生は性教育で不快な気持ちになったことはないが、中には不快な気持ちになった事がある学生もいることが分かった。不快な気持ちになったことの理由として、最も多いものが「異性と同じ教室だった」、次いで「真面目に受けていない人が多かった」であった。特に男子は「異性と同じ教室だった」が最も多く、女子は「真面目に受けていない人が多かった」が最も多かった。このことから、学校での性教育は男女同じ場所で行うことが多いが、そのような児童生徒がいることも留意して行う必要がある。また、そのような児童生徒のために、個別指導も重要になってくるだろう。さらに、性教育を行う際の教室の雰囲気づくりを工夫して、児童生徒にとって興味本位の内容にならないように進めていく必要がある。

今までの性教育を振り返り、受けてよかったと感じたことがあると回答した学生は88% (男子83%、女子89%)であり、殆どの学生が性教育を受けてよかったと感じていることが分かった。受けてよかったと感じた理由として、最も多いものが「性感染症について詳しく知ることが出来た」30%、次いで「自分の身体を大切にするきっかけになった」28%、「いのちの尊さを考えるきっかけになった」23%、「自分の身体の仕組み、相手の身体の仕組みを知ることが出来た」19%であった。このことから、学生が、いかに性感染症に関心が高いかが分かる。これは、大学生は性交経験率が高くなるので、性感染症についての関心も高くなると考えられる。また、23%の学生が性教育を受けて「いのちの尊さを考えるきっかけになった」と回答しているが、図1-1、図1-2と図5-1、図5-2を見て分かるように、学生は「いのちの尊さ」が性教育には含まれていると回答した割合は低く、また、初等中等教育の性教育で学んでいると回答した割合も低い。このことから「いのちの尊さ」は学校での性教育で学んでいるのではなく、学校での性教育から得た知識から、「いのちの尊さ」を考えており、このような結果になったのではないかと推測した。

高校卒業までに十分な性知識を得られたと思う学生は79% (男子76%、女子75%)であり、十分な性知識を得られていないと思う学生は21% (男子17%、女子24%)であった。このことから、殆どの学生は高校卒業までに十分な性知識を得られたと思っていることが分かったが、約2割の学生が高校卒業までに十分な性知識を得られていないと思っていることが分かった。このことから、初等中等教育の性教育の充実をはかる必要があると考えた。

3. 性教育を行う教員

性教育を行ってほしい教員について聞いたところ、小学校で最も多いものは「養護教諭」40% (59人)、次いで「学級担任」31%、「学校医等の外部講師」29%であった。中学校で最も多いものは、「保健・体育科教師」38%、次いで「養護教諭」24%、「学校医等の外部講師」19%、「学級担任」14%、「家庭科教師」3%、「理科教師」1%、「社会科教師」1%であった。高等学校で最も多いものは、「保健・体育科教師」37%、次いで「養護教諭」24%、「学校医等の外部講師」22%、「学級担任」12%、「家庭科教師」2%、「理科教師」

2%、「社会科教師」1%であった。この結果から、男女共に、中学校から保健・体育科教師に行ってほしいという回答が圧倒的に多くなることが分かる。これは、性教育を実際に行っている教員が保健・体育科教師であることが多いからだろう。橋本らの調査でも、性教育を実際に教えている教員の81.2%が保健・体育科教師であった⁴⁾。養護教諭の割合を見てみると、小学校から中学校で割合は大幅に下がっているが、回答した学生の人数はあまり変わっていないことが分かった。これは、小学校・中学校・高等学校で一定の人数から、性教育を期待されているということになる。岡部らの調査でも、適切な性教育授業担当者として1位が養護教諭、2位が性教育の専門家であった¹³⁾。さらに、橋本らの調査の、性教育に関わる年間計画の作成経過の調査によると、養護教諭が中心になって作成が43.1%、学校保健部会で作成が21.9%、保健体育の教員が中心になって作成が19.7%で、養護教諭が占める割合が大きいことが報告された。また、性教育の研修に参加者を送った472校のうち、84.3%が参加者の一人として、養護教諭をあげており、ついで、保健体育科教師が43.6%、担任が9.3%ということも判明した⁴⁾。養護教諭は、保健教育の専門家である。また、子どもの生活に寄り添い、深くかわりあいながら、子どもの心身の成長を支援する立場でもある。そのような立場の養護教諭が、個別の指導だけでなく、保健教育にもはいることによって、全体に専門性を活かした質の高い性教育を行うことができるのではないかと推測した。しかし、養護教諭は多様な職務に一人に対応しており、保健教育に参加したくてもできない人も少なくない。また、保健教育を行うための準備や教材研究等の時間の確保も難しいと推測される。岡部らの調査では、養護教諭の性教育担当者の割合は13.7%であった¹³⁾が、徳田らの調査では、80%の養護教諭が「兼職の発令があれば積極的に参加したい」、「条件が整えばやっても良い」を合わせて「授業に参加しても良い」と考えていると報告している¹²⁾。このことから、養護教諭が保健教育を行うためには、保健教育を行える体制作りが必要であると考えられ、他の教員の協力が必要不可欠であるといえる。そのために、養護教諭と他教員は日ごろからコミュニケーションを図るようにし、必要時にスムーズに協力を得られるような関係性作りが重要である。また、養護教諭も他教員に専門的な情報を提供し学校全体で質の高い性教育を行うことが望ましいと考えられる。社会科教師・理科教師・家庭科教師の割合を見てみると、学級担任、養護教諭、保健・体育教師、外部講師と比べ、圧倒的に少ないことが分かった。これは、社会科、理科、家庭科で学ぶ内容は性教育ではないと認識している学生が多いということは考えられる。性教育の目標は、1.男性又は女性としての自己の認識を確かにする。2.「人間尊重」「男女平等」の精神に基づく豊かな男女の人間関係を築くことができるようにする。3.家庭や様々な社会集団の一員として直面する性の諸課題を適切に判断し、対処する能力や資質を身に付けるとされている⁶⁾。したがって、保健・体育で学ぶ内容のみが性教育ではなく、社会科、理科、家庭科で行う内容も性教育に含まれている事が分かる。このことから、社会科、理科、家庭科、またそれ以外の科目でも性教育に関係する

内容であった場合、性教育に関連付けさせて授業を行う必要がある。性教育は、教職員全体の共通理解のもと、役割分担を明確にし、密に連携して行う必要がある。また、教員は、地域の教員同士のネットワークの活用や大学などの研究者との交流研修等に積極的に参加し、変化の激しい世の中で生きている子どもたちをサポートするために、常に自身のスキルアップを行う必要がある。

V. 総括並びに結論

今回の研究では、学生が小学校、中学校、高等学校でどのような性教育を受けてきたのか、さらに、児童生徒にとって望ましい性教育の在り方を明らかにするために調査を行った。調査の結果、以下のことが分かった。

(1) 小学校、中学校、高等学校でどのような性教育を受けてきたのかについては、小学校で性教育を受けたことがあると回答した学生は77%と少々少な目だったが、中学校、高等学校では、ほぼ全員が性教育を受けていることが分かった。

初等中等教育の性教育で学んだ内容は、男女ともに上位が生理的な内容・性行為的な内容であり、下位にいくにつれて心理面的内容が多くなっていくことが分かった。このことから、初等中等教育の性教育は生理的な内容と性行為関係の内容にやや偏りがちだが、性役割観などの心理面的内容を含めた幅広い内容を、子どもたちの発達段階に応じて教えていく必要があると考えた。

(2) 児童生徒にとって望ましい性教育については、性教育で不快な気持ちになったことがあると回答した学生は、11%であり、殆どの学生は性教育で不快な気持ちになったことはないが、中には不快な気持ちになった事がある学生もいることが分かった。不快な気持ちになったことの理由として「異性と同一教室だった」、「真面目に受けていない人が多かった」が多く挙げられた。このことから、学校での性教育は男女同じ場所で行うことが多いが、そのような児童生徒がいることも留意して行う必要があり、そのような生徒のために、個別指導が重要となってくる。さらに、性教育を行う際に不快な気持ちにならないような教室の雰囲気づくりを工夫して、児童生徒にとって興味本位の内容にならないように進めていく必要があると考えた。

今までの性教育を振り返り、殆どの学生が性教育を受けてよかったと感じていることが分かった。受けてよかった理由として、23%の学生が「いのちの尊さを考えるきっかけになった」と回答しているが、「いのちの尊さ」が性教育には含まれていると回答した学生の割合は低く、また、初等中等教育の性教育で学んでいると回答した割合も低い。このことから「いのちの尊さ」は学校での性教育で学んでいるのではなく、学校での性教育から得た知識から、「いのちの尊さ」を考えており、このような結果になったのではないかと推測した。また、約2割の学生が高校卒業までに十分な性知識を得られていないと回答し、性教育の充

実をはかる必要があると考えた。性教育を行ってほしい教員は、男女共に、中学校から保健・体育科教師という回答が圧倒的に多くなっているが、これは性教育を実際に行っている教員が保健・体育科教師であることが多いからだと考えられる。養護教諭と回答した学生の人数は、小学校から高校までほぼ変わっておらず一定であり、また、適切な性教育授業担当者として養護教諭が1位に挙げられていることから、養護教諭に性教育を行ってほしいと期待されていることが分かった。しかし、養護教諭は多様な職務に一人で対応しており、保健教育に参加したくてもできないでいる人も少なくなく、養護教諭が保健教育を行うためには、保健教育を行える体制作りが必要であると考えられ、他の教員の協力が必要不可欠であると考えられる。そのために、養護教諭と他教員は日ごろからコミュニケーションを図るようにし、必要時にスムーズに協力を得ることができるような関係性作りが重要である。また、養護教諭も他教員に専門的な情報を提供し学校全体で質の高い性教育を行うことが望ましいと考えられる。さらに、性教育は、保健・体育で学ぶ内容のみだけではなく、他教科で行う内容も性教育に含まれている。このことから、社会科、理科、家庭科、またそれ以外の科目でも性教育に関係する内容であった場合、性教育に関連付けさせて授業を行う必要がある。性教育は、教職員全体の共通理解のもと、役割分担を明確にし、密に連携して行う必要がある。また、教員は、地域の教員同士のネットワークの活用や大学などの研究者との交流研修等に積極的に参加し、変化の激しい世の中で生きていく子どもたちをサポートするために、常に自身のスキルアップを行う必要がある。

VI. 謝辞

本研究推進に当たり、九州地区の中堅規模総合大学の学生各位に甚大な謝意を表す。

VII. 参考文献

- 1) 石沢敦子, 矢島まさえ, 佐光恵子, 梅林奎子: 思春期における子どもの性教育のあり方 (その2) ー性教育における看護職の役割ー. 群馬パース学園短期大学紀要, 6(1) (2004) 13-20
- 2) 財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会: 「若者の性」白書 一第7回 青少年の性行動調査一, (2013) 小学館
- 3) 橋本健夫, 川越明日香: いのちを実感する授業の開発. 長崎大学教育学部紀要 教科教育学, 49 (2009) 29-44
- 4) 橋本紀子, 篠原久枝, 田代美江子, 鈴木幸子, 広瀬裕子, 池谷壽夫, 長香織, 小宮明彦, 渡部真奈美, 茂木輝順, 森岡真梨: 日本の中学校における性教育の現状と課題. 教育学研究室紀要「教育とジェンダー」研究, 9 (3) (2011) 3-20
- 5) 西頭知子, 佐々木くみ子: 若者の性とセクシュアリティ教育の現状に関する文献検討,

- 大阪医科大学看護研究雑誌、2 (2012) 95-102
- 6) 文部科学省、学校における性教育の考え方、進め方、(1999)
 - 7) 今野木綿子, 西脇三春: 大学生における性知識・性モラルと行動との関係, 山形保健医療研究, 9 (2006) 33-47
 - 8) 安武繁, 蔵本美代子, 松浦幸重, 森岡久美子, 平井ひとみ, 武田由美子, 桐山美紀子: 学校保健と地域保健が連携した「生と性の健康教育」推進システムの構築に関する研究, 人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌, 6(1) (2006) 83-90
 - 9) 内閣府: 低年齢少年の生活と意識に関する調査、(2007)
 - 10) 文部科学省、学校教育全体(教科横断的な内容)で取り組むべき課題(食育、安全教育、性教育)と学習指導要領等の内容、(2005)
 - 11) 高橋久美子: 中学生の父母はどう性教育をしているかー親と子の認知の比較ー、日本家政学会誌、50(6) (1999) 621-629
 - 12) 徳田修司, 長岡良治, 飯干明, 末吉靖宏, 福満博隆, 南貞己: 養護教諭の健康教育への積極的参加について : 現状と課題, 鹿児島大学教育学部研究紀要, 教育科学編、56 (2005) 25-42
 - 13) 岡部恵子, 佐鹿孝子, 大森智美, 久保恭子, 宍戸路佳, 安藤晴美, 坂口由紀子: 大学生の認識をもとにした高等学校における性教育の現状と課題(第1報), 母性衛生、50(2) (2009) 343-351

The opinion poll about the sex education in the elementary and the secondary education

Chikae MOURI, Mizuki ANAI, Yoshiaki MATSUMOTO

Advanced course of childhood care and education at Kyushu Women's Junior College
1-1, Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

Abstract

As for the sexual behavior to be interested in children, the need of early effective sex education in the school education including the increase of the person of artificial abortion and STD affection rises in a course of among the lower aged people more and more.

Therefore we investigated it for 113 man and woman students of the first grader of one intermediate university in Kyushu what kind of sex education they received by an elementary and secondary education and thought about the way of appropriate sex education.

As for the content that they learned by the sex education of the elementary and secondary education regardless of boys and girls student as a result of investigation, physiology and the thing about the sexual intercourse were higher, and contents about the psychology were lower.

The teacher who wanted sex education to reach sent big expectation to health, a health and physical education teacher regardless of boys and girls student from a junior high school stage.

In addition, the answer about the school-nurse became junior high school stage (24%) for elementary school stage (40%), but expected the uniformity because there was not the change in the number of people to expect.

A health and physical education teacher and a school-nurse show the leadership, and it is important as things mentioned above to carry out with the cooperation of all teachers from an early stage.

Keywords: school, sex education